

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100022		
法人名	日本ロングライフ株式会社		
事業所名	ラビアンローズ宝塚		
所在地	宝塚市泉町6-6		
自己評価作成日	平成29年4月	評価結果市町村受理日	平成29年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyougo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成29年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お客様第一主義実践」は全社員、「全てはお客様の笑顔のために」をホームのスローガンとしお客様一人おひとりにあったサービスを全スタッフがご提供しています。お客様が今まで過ごされてきた人生背景「文化と背景」、ここに暮らしたいと感じていただく「心地よい空間」、お客様のプライドと尊厳を守る「質の高い身体ケア」この3つの要素を柱とし、ずっと自分らしく生きたいという当然の欲求に応えるため楽しみからライフスタイル全般までそのプログラムや環境をアレンジしながらプロデュースする全人的ケアを実行しています。会社、ホームでの定期的な研修制度も充実しており全スタッフの意識向上に繋がり、地域へのホームイベント声かけやコミュニティ会議、事業者協会会議への積極的な参加、小学校4年生を対象にした認知症サポーター養成への参加、またトライやるの中学生の受入などを通して地域との繋がりを構築し親しまれるホーム作りを行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街にある事業所に一歩足を踏み入れると、眼前に別世界の花園の庭が現れる。建物の周囲に季節の木々や、手入れされた草花が咲き乱れ、庭は散歩やお茶を飲んだり、利用者にとって憩いの場となっている。法人の考えである、文化・空間・ケアの3つを柱にしたグッドフィーリングのサービスの提供は、事業所においても、人生を愉しむためのプログラムとして多く準備され、コーディネーターが、利用者個々の要望に合わせサービス選択の支援をしている。高齢化や重度化が進む中で、外出が困難な利用者もいるが、さらに、事業所が自宅のように居心地良い場となるために、利用者全員が集う、朝の会を設けた。体操や情報交換、季語の紹介など、利用者間、職員と共に触れ合う時となり、利用者にとって楽しみの一つとなっている。今後も、利用者・家族に多くの笑顔をもたらす取り組みと共に、美しい庭や共有スペースを活用した地域交流の機会が増えることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様第一主義」を会社、ホームの理念とし、お客様目線を常に考えいつまでも安心して楽しくお暮らし頂ける様に努めています。毎日、勤務前に社員手帳の理念唱和を行い意識の共有に努めています。	「全てはお客様の笑顔のため」を基本に、利用者の文化と背景を尊重し、心地いい空間と質の高いケアの提供を目指している。理念は事務所に掲示し朝礼時に唱和している。特に職員の笑顔の接遇対応は指導、徹底されている。	理念は、家族や来客者にも目につくところに掲示することで、さらに理解や評価を得られるのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム犬のお散歩時やホーム前の公園の掃除などで毎日挨拶を交わし地域の皆様に認知して頂き、愛されるホームとしてホーム内イベントを地域の方々にもお知らせしお招きしています。	コミュニティ会議において、地域の情報交換や課題について話し合い、ボランティアや体験学習なども積極的に受け入れている。ケアマネは小学校の認知症サポーター研修の講師を務め、事業所の共有スペースを地域の会議に提供するなど、地域との交流の機会を増やそうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生対象の認知症サポーター養成講座のファシリテーター、コミュニティ会議などへの参加を積極的に行い、お話しをさせて頂く機会を持つようになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、民生委員、介護保険課担当者、地域包括、社協、ご家族様に開催参加のお知らせを行い、参加が難しいご家族様には事前のご意見をお聞かせ頂いている。	会議の定例日を決めて欲しいとの要望があり、固定化し、市、包括、社協、民生委員、家族の安定した参加が得られている。現状報告や事故報告、情報交換に加え、食中毒やインフルエンザなど、タイムリーな内容のプチセミナーを行う事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の手続きだけでなく、事故報告などの連絡や、質問相談など細かくとるように心がけております。	地域の様々な会議で出会うことが多く、気楽に福祉用具や、制度のことなど相談できる関係性にある。市全体で行われている、医療・介護・福祉の地域包括ケアシステムの構築の会は有意義で、今後も市及び地域と連携し協力関係を強化していく意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束(玄関の施錠も含め)に関する研修を必ず行い、職員全員の知識と意識を向上させる取組を実施しております。身体拘束は必要時、最小限の拘束に留める事と必ず見直しの検討委員会を開催し継続していく事の意識付けをしています。	定期的な研修と共に、身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。しかし現在、転倒を繰り返す利用者に安全ベルトを使用している。やむを得ない場合は、手順に添い実施、定期的に評価し、改善策を見出すよう取り組んでいる。門扉は、何度か離脱事例がありロックしている。	継続して短時間でも解錠する方向で検討される事を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症についての知識と認知症がもたらすBPSDについて学習する機会を必ず設け、合わせて身体拘束と虐待についても折に触れて話し合いをすることで意識を高めています。スタッフのストレスにも目を向け相談しやすい雰囲気にも努めています。新人スタッフはもとよりベテランスタッフに対しての意識付けにも取り組んでいます。	事前学習を必須とする参加型の研修を実施し、全員が研修報告書を提出して、学習効果を高める工夫をしている。管理者はストレスマネジメントの研修を定期的に受講し、職員と定期的な面談を行い、ストレス回避に努めている。法人として外部の電話相談のシステムがある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用中のお客様もおられ定例研修の中に日常生活支援事業や成年後見人制度のテーマで学習の機会を設けている。適切に繋げて行ける様に内容共有に努めています。	契約時に制度について説明している。入居前から成年後見制度を利用していた人が数名あり、職員にとっては身近な制度でもある。パンフレットを常備し、今後も継続して学んでいく姿勢である。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約最終前には会社専任のアドバイザー及びホーム長の立会いで契約書内容の十分な説明と家族様のご理解の確認、また見学時から様々な疑問点の解消に努めています。	パンフレットなどで入居の流れを分かりやすく説明し、見学もしくは体験入居後に理解と納得の上、仮契約を行なっている。契約時は特にサービスや取り組み内容、医療体制、緊急時の対応など、丁寧に説明している。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において運営についての説明をさせて頂き、疑問点やご要望についても発言して頂いている。また日頃から面談や電話連絡をさせて頂き発言しやすい関係性の構築に努めています。	家族とは、密なコミュニケーションを図り、利用者や家族の相互の想いを尊重し、調整や支援を行うことにより、信頼関係や要望を言いやすい関係性を構築している。家族からの食器が重いのではとの意見を反映し、全利用者の食器を軽いものに交換した。アンケートは法人が入居3ヶ月後に実施している。	事業所独自のアンケートを実施してはいかがか。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングにおいて、会社並びにホームの状況説明と方針指示を行っています。具体的な業務推進方法等については現場の問題をフロアーミーティングや個人面談にて解決しながら納得の上職務に当たれるようにしている。	会議前に議題を提示し、意見を持ち会議に主体的に参加することを職員に奨励している。また、管理者は毎月職員と面談し、個別的に意見を聞く機会を設けている。備品の購入や、食事イベントなどの提案や意見が反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、個人面談も実施の上、普段の職務内容と実績結果を踏まえて評価するよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者については月2回の会議を催し、会社としての状況説明と指示・疑問の解消等を図り、職員についても正社員やパートごとに介護技術の研修や会社の理念の研修等を定期・不定期に行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークや外部研修などに積極的に参加する事で病院、介護事業所の方がたと意見交換の場を持てるようにしている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご契約、ご入居頂く前にホーム長、ケアマネージャーがご本人様と面談させて頂きお体の状態や不安に思われている事、希望する事など寄り添う視点でお聞きし信頼関係を築く第一歩として傾聴を意識しています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特にグループホームという事もあり、ご家族様の悩みに寄り添う形で傾聴に努めています。ご入居されるお客様の状況も踏まえながら、場面に依りてのご説明やアドバイスをする事もあります。将来様々な形で判断が必要になった時にはこの初期の段階での関係性づくりが最も重要と捉えています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基にご本人様、ご家族様にとって必要性の高いものは何か見極め検討している。事前MT,導入後1ヶ月で再MTを実施。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居様同士の助け合いやお客様が出来る事は取り上げずに積極的に家事への参加をして頂き出過ぎる事のないケア、自立支援に心掛けています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には時間を気にされる事無く普段通りにご来館頂き、ご家族様の気持ちを大切に捉え一緒にお散歩頂いたり、お食事を一緒に召し上げて頂いたりイベントに参加して頂いたり等楽しみを感じながらご協力頂ける様コミュニケーションを大切にしています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方、ご近所付き合いのあった方、など制限を設けず自由にお越し頂える雰囲気と声掛けをさせて頂いています。	利用者が徐々に馴染みの関係や場を忘れがちになる中で、友人の来訪を歓迎し、家族と自宅へ外出や馴染みの店へ外食に行くなど関係継続を支援している。定期的に訪れる介護相談員や、イベントで来訪するボランティアと新たな馴染みの関係も生まれている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単な家事やイベントでの作業で連帯感を持って頂き、ご入居様同士の関わりや助け合いを自然に行えるようなお声かけの仕方に工夫を重ねています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りをさせて頂いたご家族様から何度かご相談の連絡を頂いたことがあります。時間の許す限りお話しをさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシート、再アセスメントを行い、思いや意向を把握し、全職員が情報共有出来る様にMTを重ねています。ご家族様、ご友人様からの小さな情報も収集共有し生活に活かすように努めています。	利用者の背景やこだわりなどの情報を丁寧に収集し、個々の特性に合わせたアプローチや、選択肢の中から意向を確認する工夫をしている。法人に旅やグルメ、観劇などの倶楽部があり、企画の中から選択し、旅行やサーカス見学に行く利用者に職員が同伴するなどの支援を行っている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に本人、ご家族様から聞き取りを行います。同意を得たうえで使用中のサービス事業所にも出向き、担当スタッフ、ケアマネ、センター長からも情報収集を行っています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL,IADL、健康情報などの現状を把握し、聞き取り、観察に留意しています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様との面談、サービス担当者会議、フローアMTを定期開催し意見を収集し反映した計画作成に努めています。また状態の変化に応じて臨時会議の開催にも取り組んでいます。	利用者担当制で職員は介護計画を把握し、ケアに携わっている。記録は、情報・行なったこと・反応に分け、情報を分かりやすく共有できるよう工夫している。モニタリングは半年ごとに、再アセスメント結果やミーティング内容、記録などからケアマネが行ない介護計画に反映している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と共に、連絡ノート、ホワイトボードを活用して最新情報を共有し、朝礼夕礼の申し送りにおいても丁寧に行っています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じた対応を行っています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コミュニティー会議や外部との交流の中で情報を集め、地域に出ていくイベントや地域での買い物など楽しんで頂く為の支援を行っています。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を持ち定期往診にきている。24時間医療体制をとっており急病、特変時に対応している。ご入居前からのかかりつけ医受診の支援も行い、心療内科、皮膚科、眼科通院援助、入退院援助も行っています。	利用者や家族の希望に応じて受診支援を行っている。ほとんどの利用者が、協力医療機関の定期的な往診で体調管理が図られ、医師との連携も良好で職員の安心に繋がっている。皮膚科や歯科も必要時往診依頼ができる。結果は家族にも報告している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診に同行し、様々な変化など報告、相談している。定期往診以外に毎週一回NSが巡回。健康チェックを受けて頂き、電話でも連絡体制を取って適宜指示を頂ける様な支援をさせて頂いています。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、後見人様と常日頃から医療についての話し合いを行い、担当医、NSとも連絡をとり連携に努めています。医療連携室のソーシャルワーカーの方との連携も密に取りように心掛けています。コミュニティー会で顔なじみになるように努めています。	定期的な往診により利用者の状況が把握でき、緊急時には素早く対応できている。入院時にはサマリーを提出したり、退院時カンファレンスに参加して、不安の軽減に努めている。職員は日頃から情報交換を密に行い、受け入れ態勢や退院時の調整がスムーズにできるよう努力している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご意向や情報の共有に努め、ご本人様の症状や段階に応じて何度もカンファレンス、ICを調整支援しご家族様、医療、ホームの合意事項を確認。またスタッフの看取り研修も折に触れて行いホーム全体で支援をさせて頂く視点が持てるよう取り組んでいます。	状態の変化に応じて、利用者や家族の思いを確認しながら方針を共有し、安心と納得が得られるようケアを提供している。重度化しており、看取りの経験も豊富で、その都度振り返りを行い、次に生かせる機会を設けている。職員は緊急時対応や看取りの研修も受け、知識と技術を身につけている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当も含めかかりつけ医、NSにその都度ご指導頂き、技術知識を深める様にしています。緊急時の救急要請対応の研修も定期行っています。また、緊急時連絡網にて指示できる体制を整えています。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置済。消防設備点検、消防訓練も年2回実施。消防訓練では入居者様、地域の方々にも参加を依頼し避難、消火訓練の指導頂いた。ネットワーク会議においても議題として上がっている。	年に2回夜間想定を含む訓練を実地している。利用者は重度化しており、移動に手間取る不安がある。火元から遠くへ避難して待つ事と落ち着いた行動が重要とアドバイスを受ける。地域は大雨で川が氾濫する危険性があり、ネットワーク会議でも課題である。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修(中途採用者も全員)を受けている。プライバシーと尊厳を守る事は基本理念として徹底し個人情報保護方針を確立している。ホーム独自でも、着任初日にOMから研修を実施し、様々なMT時に実例を持って注意喚起を行っています。	基本理念である利用者の尊厳とプライバシーを守ることは、研修で周知徹底されている。雑誌を読んだり、横になって過ごすことも見守りながら、自由な時間を保障している。また少量の晩酌を楽しむ利用者もいる。個人情報の流出にも注意を促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、お声かけや説明に留意しながら、楽しむ、決める、選ぶなどの支援を心掛けています。意思表示が困難な方においても、「人生と背景」の聞き取りからの情報ご家族様からの情報を元にその人らしさを常に考え支援に努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでもお客様が目下にご自分のペースで暮らせるように支援。毎日の生活の中で体調の変化、お気持ちの変化がある事を認識し臨機応変な対応が大切と折に触れて「お客様目線」「その方らしく」と声出しをしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問美容サロンを楽しんで頂き、特別な催しや外出の際には正装して頂いたり、日常においても、ご本人様らしさを持っておしゃれを楽しんで頂いています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材を選び行事に応じた献立、好みを把握し美味しく食べて頂く為の工夫をしています。オヤツづくりも一緒に行い、盛り付けから片付けまで一緒に会話をしながら行っています。	本社統一メニューを専属調理人が調理して、職員が利用者の嚥下能力に応じて形態を調整している。本社から巡回があるとき、好みを伝えることは出来る。食事イベントでは、料理人が天ぷらを揚げたり、園庭で焼肉やティータイムを楽しむこともある。	重度化によりミキサー食やムース、刻み職が多くなっている。イベント食からでも目で楽しむ工夫を期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズム表に食事摂取量、水分摂取量を記入し、摂取困難や不足気味の方の把握に努め摂取して頂ける様な工夫を重ねています。適宜かかりつけ医、NSにも相談させて頂き指導頂いています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケア、ナイトケア、毎食後のうがいなど実施しています。お客様が出来る所はして頂き、その後のチェックとお手伝いもさせて頂き、身体機能的に重度の方はスタッフがお手伝いさせて頂いています。			

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム表に記入する事で排泄のリズムを把握し促しのお声掛けを行っている。個々の状態に合わせ、自尊心を傷つけない様に配慮し、個々の状態に合わせて排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄前の癖や様子変化を観察しタイミングを計りながらトイレへの促しを行っています。	個々の排泄パターンに応じて個別に支援を行っている。気持ちよく排泄するために、トイレ排泄を基本としている。表情の変化や排せつパターンを把握して誘導することで失敗を少なくしている。夜間は定期的にオムツやパット交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す食事の工夫や適度な運動を取り入れています。適宜乳製品の提供や朝のラジオ体操等実施しています。また水分摂取にも留意しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日が固定で実施していますが、当日入浴が出来なかったお客様は翌日などで調整して入浴して頂いています。お一人で入浴可能な方は外で安否確認の為見守りを行いつつ、ゆっくりと入浴して頂いています。入浴剤を選んで楽しんで頂いています。	一般浴室や大浴場、介護浴室があり、利用者の希望に応じて入浴している。ほとんどの利用者には何らかの介助を要するが、自分で出来る事はしてもらっている。好みの石鹸やシャンプー、入浴剤を使用して楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暖かい飲み物を提供するなど自然な眠りに移行出来るように努めている。お客様によっては、日中からだを休める時間を設けさせて頂いたり、ご自身でお部屋に移動されゆっくりとされる事もあります。その際体調確認を行い特に止めたりは致しませんが昼夜逆転にならない様に観察し留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロア毎に薬情ファイルを作成し、いつでも使用する薬の目的、副作用、容量を確認できるようにし入居者様1人1人が指示通りに服用出来るように服薬チェック表も作成し支援している。お薬の変更があった場合には観察に努め、リズム表に記載、朝礼、夕礼にても情報共有に努めております。誤薬0運動にも取り組み注意事項の確認を必ず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グッドフィーリングコーディネーター、サービスディレクターを置き、モニタリングやアセスメントを繰り返しその方らしさを活かした役割、楽しみに目線を置き生きがいのある暮らしの実現のため支援している。季節のイベント、外出行事の参加はもちろん、日常の中での役割(家事全般、水やりなど)を皆さんで助け合い実施して頂いています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの敷地内に園庭が有り、お散歩など楽しんで頂いているが、お茶菓子など楽しみの買物、図書館など外出をご一緒したり、よく通われた近くの公園までの散策などご希望に沿った外出の支援を行っている。	近くのコンビニやスーパー、百貨店、図書館など介護タクシーを利用して外出支援を行っている。花が大好きな利用者が多く、花がある公園に出かけることが多い。園庭を職員や家族などと散策しながら季節を感じたり、会話を楽しんでいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金制度を取っており金銭の管理は当方ですが、お買物時は職員が付添、個々に応じたお金をご本人様に所持頂いて、お支払の見守りをするなどの支援をしています。ご自身で趣味の手芸用品を購入されたり、自販機で飲み物を買われたりしておられます。。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の希望も受け入れながら、ご家族様、ご友人様への手紙や電話など日常的な利用や取次の支援をしています。ご自身で携帯電話を持たれ毎日ご家族様とやり取りをされておられる方もいます。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、緑、水、風、花などを感じて頂ける心地よさをコンセプトとした工夫と、自然の豊かさを楽しんで頂く散歩みちや菜園などの空間づくりにより季節を感じて頂く取り組みをしています。懐かしい家具やポスターも飾り、さりげなく回想法を取り入れています。ホーム犬も癒しの存在になっています。	事業所全体が緑に囲まれ、玄関を入るとホーム犬が出迎えてくれる。ホームの一角に、レトロな足踏みミシンやピアノなど昔懐かしいインテリアが配置されている。また手入れの行き届いた庭園の一角には昭和の街並みが再現されており、季節の花が咲き、滝から流れる水の音が利用者の癒しとなっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く設けており、自由に行動いき各所に休憩できる椅子を設置し自由に利用して頂いている。共用リビングにはTVを設置し、好きな方々でスポーツ観戦されたり、懐かしの歌のビデオを見られたりまた、別の場所では静かに読書をされたりと自由な時間を過ごして頂いています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前からの説明で、思い出深い物、使い慣れた物を持参していただき、お客様が安心して穏やかに過ごして頂けるようにしています。また小集団スタッフを中心にホーム内活動のなかでの作品をお部屋に飾って頂いたり、お客様らしく、落ち着けるお部屋作りも行っています。	クーラーと照明は設置されている。居室の広さは間取りにより多少違いがある。これまで使い慣れたおしゃれな家具や調度品に囲まれ、居心地のよい部屋となっている。壁にはアートセラピーで作成した自身の作品が掲示され、落ち着いた空間となっている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の動線を考えながら、使いやすさの工夫や高さの調整などの配慮を行っています。		